

第7回 那覇空港環境保全検討委員会 議事概要

1. 開催日時

平成25年5月14日（火）13:00～15:10

2. 開催場所

沖縄県市町村自治会館ホールB

3. 出席者

(1) 委員（○印 委員長）

大森 保 琉球大学 名誉教授

須田 彰一郎 琉球大学 理学部教授

津嘉山 正光 琉球大学 名誉教授

○ 土屋 誠 琉球大学 理学部教授

中川 康之 独立行政法人 港湾空港技術研究所
沿岸環境研究領域 沿岸土砂管理研究チームリーダー

野島 哲 元 九州大学 理学部附属天草臨海実験所 准教授

(2) 関係者

中原 正顕 内閣府 沖縄総合事務局 港湾空港指導官

酒井 洋一 内閣府 沖縄総合事務局 那覇港湾・空港整備事務所長

4. 議題

- ①委員会委員の構成について
- ②工事計画の変更について
- ③準備書に対する主な知事意見とその対応方針について
- ④波浪・潮流・水質の予測結果について
- ⑤海域生物・海域生態系の環境保全措置について

5. 議事概要

(1) 国土交通省国土技術政策総合研究所を退官された古川委員の後任として国土交通省国土技術政策総合研究所鈴木 武氏の委員参加を含む設置要綱改定が了解された。

(2) 議題②～④について、事務局の説明後に質疑・応答がなされた。主な意見は以下のとおりである。

(イ) 海域生態系におけるサンゴ類を主とする礁縁の予測・評価について、サンゴ類の生産者の視点については、知事意見に対応するためには、定性的に評価するのではなく、ある程度定量的な評価を行うことができないか検討すること。

- (ロ) 工事中のSSの堆積予測については、一ヶ月あたりの堆積厚を示しているが、ピークと同程度の工事が続く場合、その期間全体でどの程度堆積するかについて評価することができないか検討すること。
- (3) 議題⑤について、事務局の説明後に質疑・応答がなされた。主な意見は以下のとおりである。
- (イ) 知事意見には「反射波も含む波浪により海草藻類が受ける影響を予測・評価させること。」とあるので、検討のプロセスも含めて反射波という言葉が記述すべき。
- (ロ) 知事意見としてサンゴ類の「有性生殖移植法については、その有効性及び効率を無性生殖移植法と比較し示すこと」とあるので、比較した結果を記述すべき。
- (ハ) カサノリ類の順応的管理方法としては、カサノリ類がどういった状況になるのかということが分からないので、被度が高い部分をみながら対応していくしかないのではないか。
- (ニ) カサノリ類の生態的特徴を勘案すると、毎年同じような分布をすとは限らないため、なるべく広い範囲を対象にして調べていくのがよいのではないか。
- (ホ) 長期的な影響として、閉鎖性海域の水質変化が懸念される。現在、SSや塩分等について検討がなされているが、より長いタイムスパンでの影響を予測することについても検討すること。
- (ヘ) 閉鎖性海域においては、海草藻類の生育域が広がることが考えられるが、その場合に考えられる水質変化についても評価すべき。
- (ト) 以上の意見を勘案した上で、環境影響評価書に反映させること。